

## 大津波警報中、在来線は止めて新幹線はなぜ動かした！ JR東海は高齢者の労働条件改善の企業努力はやらない！ 国交省・厚労省要請行動で 切実な組合員の意見を訴える！

本紙No.2068およびNo.2069で、国土交通省と厚生労働省の要請行動について報告しました。その中で、J R 東海労からの出席者は、組合員からの切実な具体的な意見を出し、各省がJ R 東海に対して指導をするよう求めました。そしてさらに、たしろかおる参議院議員がJ R 東海労の発言を後押ししました。

国土交通省においては、省の回答を受けた後、J R 東海労から新幹線津波対策について自治体のハザードマップについて見直しと整備の推進を要請しました。弁天島駅付近の写真を配布し、「3・11東日本大震災の時、在来線が止まっているのに新幹線は安全という理由で運行停止しなかったことはおかしい」と訴えました。そして、たしろかおる議員が「在来線は止める対象で新幹線が関係ないというのは、国土交通省として価値観をハッキリするべき」と、J R 東海労の発言をサポートして頂きました。

厚生労働省においては、専任社員について特に在来線の乗務員の労働条件改善を求めました。何よりも、「自宅からわざわざ遠い職場に配属せず、近い職場に配属し、65歳まで働ける条件つくるべき」と訴えました。これについても、たしろかおる議員は「努力義務は企業はやらない。実効性のあるものに転換すべきだ」と、サポートして頂きました。



一番奥が国交省藤田鉄道局長、  
その右隣がたしろかおる参議院議員

たしろかおる議員の発言により、各省の担当者は真剣な表情で意見を受け止めました。